

栄養サポートチーム (NST) 活動が全身 状態の改善に極めて有用であった1例

かど わき ひで かず まつ い りゅう きち す やま のぶ お
門 脇 秀 和¹⁾ 松 井 龍 吉¹⁾ 須 山 信 夫¹⁾
やま ぐち しゅう へい こ ぼやし しょう たい あ だち きょう いち
山 口 修 平²⁾ 小 林 祥 泰²⁾ 足 立 経 一²⁾

キーワード：ビタミン欠乏，微量元素欠乏，NST，高齢者

要 旨

症例は89歳，10数年独居で認知症のない女性。右大腿部頸部骨折を契機に他院に入院し，術後2週間頃より認知症様言動・食欲低下が認められていた。頭部CTなどの検査では異常がみられず，経鼻胃管での栄養管理下で手術から1ヶ月半後に紹介入院となった。Nutrition Support Team (以下 NST) の介入後，胃部分切除後のダンピング症候群，V.B12欠乏とそれに伴う貧血，V.B12欠乏による末梢神経障害，Zn欠乏による味覚障害，V.B1欠乏に伴う認知症様症状の存在を疑い，それらに対する栄養療法を施行したところ，症状の劇的な改善を認め2週間後には経口摂取での退院となった。

NSTの介入は多職種の見地から患者を包括的に診る事で，主治医のみでは見落とされがちな問題点が抽出可能である等の利点が指摘されているが，本症例では短期間に全身状態の改善を認めており，教訓的な症例と考えられた。

はじめに

高齢患者においては，歩行機能，嚥下機能などの身体機能の低下に加えて，認知機能障害，独居，介護不足など低栄養となりやすい多くの危険因子を有していることが指摘されている。高齢化が加速度的に進む山陰では，入院患者に占める高

齢者の比率が極めて高く，潜在的な低栄養状態の患者の増加が予測されている。したがって，多職種の見地から患者の種々の栄養療法上の問題点を包括的に改善することを目的としている Nutrition Support Team (以下 NST) 活動によって，助けられる症例も加速度的に数を増している可能性がある。当院でも日々 NST 活動に精進しているが，医学的側面，社会的側面など多方面から患者を管理しながら NST 活動を実践してゆくには，1症例1症例を大事にし，継続していくことが重要と考えている。

Hidekazu KADOWAKI et al.

1) 津和野共存病院内科

2) 島根大学医学部附属病院

連絡先：〒699-5604 鹿足郡津和野町森村141